



生徒の主体的な学びを支援する掲示物

北陽中学校では、授業中の黒板や教室の中に、多くの掲示物が見られます。今号は、北陽中学校の掲示物について紹介します。

掲示物の作成について



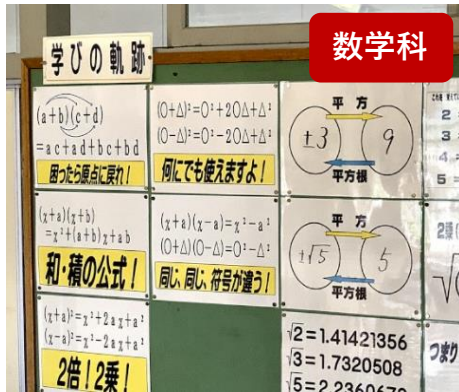
阿部教諭(3年学年主任・研究主任・理科)に伺いました。

授業で使う掲示物として、「**単元を通して出てくるキーワード、他領域でも使えるキーワード**」「**各教科の見方・考え方**」などを準備しています。また、前時までの板書を撮影して拡大印刷し、次の時間に全員で確認するなど、**単元を通して生徒の学びがつながるように支援**しています。1問1答形式のような詳細なワークシートを作るよりも、**効果的な教材(掲示物)**を準備することを優先しています。

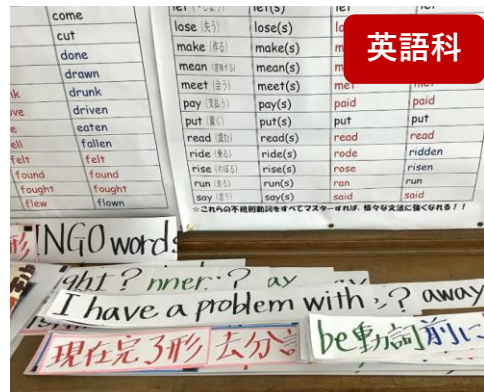
北陽中の掲示物



理科



数学科

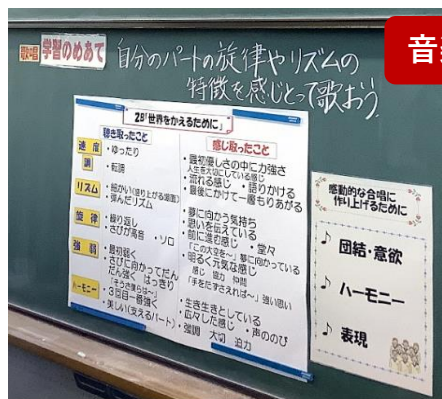


英語科

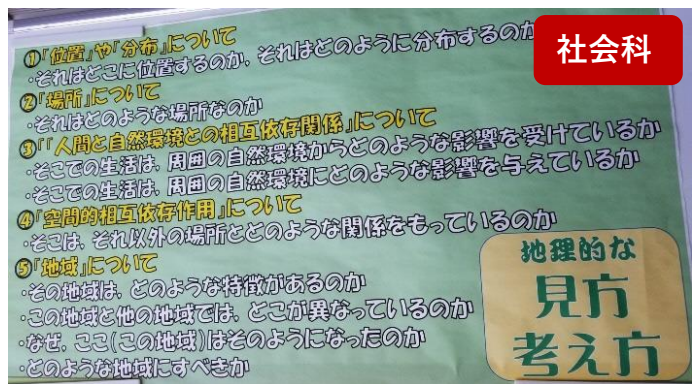
前時までの板書を写真に撮り、拡大印刷をして掲示しています。生徒が既習事項をすぐに振り返ることができ、学んだことを次の学習に生かしています。

「学びの軌跡コーナー」を教室の側面に設置し、公式や解法、数学用語などを掲示しています。生徒が授業中に解法を説明する際に活用しています。

英語科専用の教室には、学習用語や英語の例文などの「掲示物」がストックされています。3名の英語科の先生方で共有して、使用しています。



音楽科



社会科

曲を鑑賞し、「聴き取ったこと」と「感じ取ったこと」をまとめています。「速度」「リズム」等の聴き取る視点を明記しています。

地理的な見方・考え方をホワイトボードに貼っています。生徒が、学習課題を立てるときのヒントとなっています。

萩原指導教諭のつぶやき

北陽中学校では、授業の流れに沿ったワークシートやプレゼンテーションを作るより、重要語句や学習用語、資料などの掲示物を準備している先生が多いです。

このような掲示をする利点は、生徒にとっては**単元や領域を越えて活用できる重要語句**や**見方・考え方**が明確になり、教員にとっては**生徒の思考に沿って柔軟に、臨機応変に授業を進められる**ことにあると感じました。



北陽中学校では、**生徒の主体的な学びを支援することを目的**に掲示物を作成しています。また、掲示物を教科の担当で共有することで、若手教員には授業づくりの参考になっています。